

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立今泉小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問調査)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問調査)

4 本校の参加状況

① 国語 95人

② 算数 95人

③ 理科 95人

5 留意事項

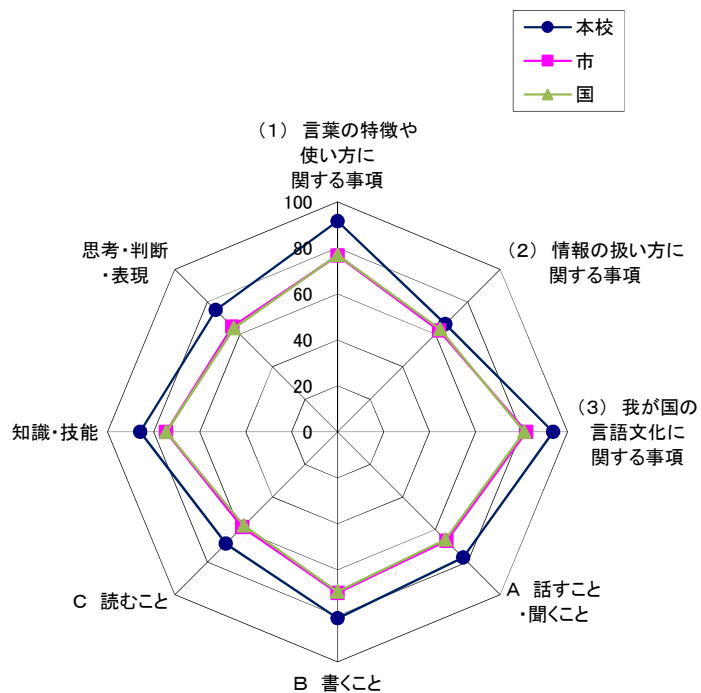
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることを留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立今泉小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	91.6	76.7	76.9
	(2) 情報の扱い方に関する事項	66.3	62.4	63.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	93.7	82.1	81.2
	A 話すこと・聞くこと	77.2	67.0	66.3
	B 書くこと	81.1	70.0	69.5
	C 読むこと	68.7	58.6	57.5
観点	知識・技能	85.8	74.5	74.5
	思考・判断・表現	74.9	64.6	63.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

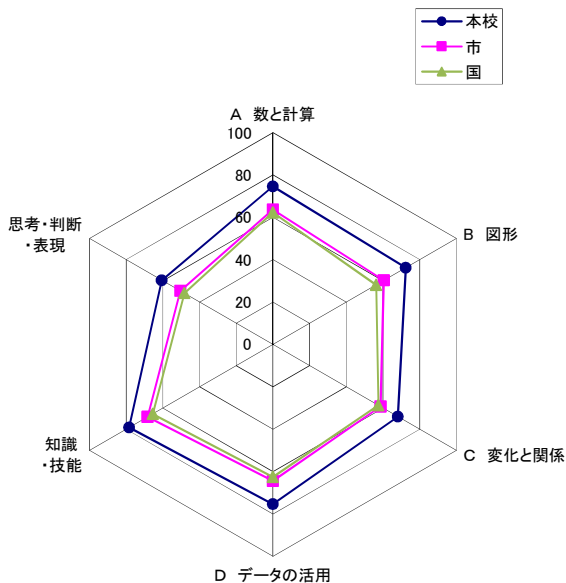
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、市や全国を10ポイント以上上回っている。 ○漢字を文の中で正しく使うことができるかみる問題で、「このみ」の正答率は94.7%、「あつい」はの正答率は88.4%で、どちらも全国の平均を大きく上回っていた。漢字を文の中で正しく使うことができるかみる問題で、高い正答率となった。	・漢字の字形を覚えるだけでなく、文の中での使い方や成り立ちについての理解も深められるよう、指導を工夫していく。 ・Aドリルなどを活用し、繰り返し学習をすることで基礎基本の定着を図っていく。
(2) 情報の扱い方に関する事項	平均正答率は、市や全国を約3ポイント上回っている。 ○情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかみる問題の正答率は66.3%で、全国の平均を約3ポイント上回っている。しかし、全ての問題の中で全国平均との差が最も小さい結果であった。	・情報の整理と活用する力を高めるために情報を取り出し、必要に応じて図などを用いて関係性を整理する活動を取り入れたり、辞書や事典の使い方、引用の仕方、出典の示し方などを指導していく。その際に、具体的な事例から知識を整理し、具体的な場面で活用する流れを意識しながらまとめるようにする。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市や全国を10ポイント以上上回っている。 ○時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができるかみる問題の正答率は93.7%で、全国の平均を約12ポイント上回っている。	・今後も読書活動の充実を図り、本に親しむ習慣を身に付けられるようにすることにより、言葉の変化や世代による言葉の違いに関心を広げられるようにする。 ・教科書で取り上げられることが少ないが、ことわざや故事成語などについて触れる機会を設けたり、家庭学習に取り組んだりして親しむことができるようにし、言葉の対する関心を高めていく。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、市や全国を約10ポイント上回っている。 ○「目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができる」かみる問題の正答率は71.6%で、全国の平均を約18ポイント上回っている。	・話し合い活動や友達の発表を聞く活動では、話し手が意図していることを考えながら聞いたり、自分の考えとの相違点を考えながら聞くことができるよう、日常的に指導していく。 ・日頃の学習で意見を交流し合う活動を積極的に取り入れ、自分の意見を述べたり、相手の意見の大切なことや理由を正しく聞いたりすることを繰り返し指導していく。
B 書くこと	平均正答率は、市や全国を10ポイント以上上回っている。 ○特に、図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかみる問題の正答率は92.6%ととても高い。また、全国の正答率を10ポイント以上上回っており、よく理解できていると言える。	・段落や基本的な文章構成などを繰り返し指導することで、書くことの基本的な知識技能を身に付けることができるようにする。 ・書くことの単元に限らず、朝の学習や家庭学習など短い文を書く活動を日常的に行う。
C 読むこと	平均正答率は、市や全国を全て上回っている。 ○時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができるかみる問題の正答率は90.5%と高い。また、全国の平均を10ポイント以上上回っている。 ●事実と感想、意見などとの関係を叙述をもとに押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかを見る問題は、全国の平均を約3ポイント上回っているが、正答率が54.7%で全ての問題の中で結果で、最も低い正答率だった。	・引き続き、読書活動の充実を図っていく。様々なジャンルの読み物に触れることができるよう、指導を工夫する。 ・調べたことをまとめる時に「事実と意見」「原因と結果」など、情報と情報と関係を分析的に捉え、表現にいかしていく活動を取り入れるようにする。

宇都宮市立今泉小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	74.6	63.6	62.3
	B 図形	72.4	60.4	56.2
	C 測定	65.3	56.9	54.8
	C 変化と関係	68.1	58.6	57.5
	D データの活用	75.4	64.4	62.6
観点	知識・技能	78.4	68.3	65.5
	思考・判断・表現	60.6	50.4	48.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

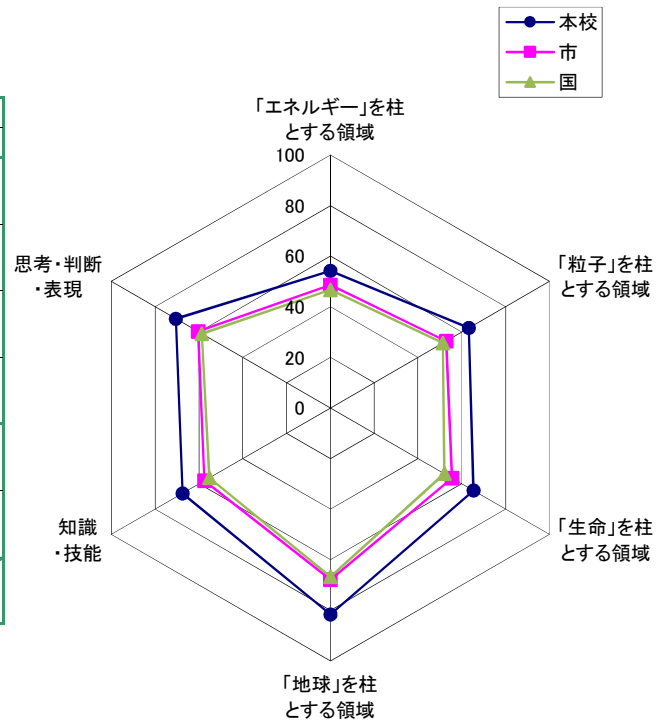
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>平均正答率は、県や国の平均を10ポイント以上上回っている。 ○小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉えることができるかみる問題の正答率は85.3%で、県や国の正答率を大きく上回っている。 ●分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加法と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述する問題の正答率は、県や国の平均を上回っているものの、38.9%で全問題の中で最も低い正答率だった。また、無回答率も記述式の中で最も高い7.4%だった。</p>	<p>・今後も基本的な計算の定着に向けた学習を継続したい。また、AIDリルなどを活用することで、児童の状況に応じて取り組む課題の量や質を選べるようにして、個別最適な学習を目指したい。 ・授業では、計算の仕方を図や数直線などを活用して説明したり、友達と考えを交流したりする時間を十分に確保し、考えや解法を記述して説明する力を伸ばしたい。</p>
B 図形	<p>平均正答率は、県や国の平均を15ポイント以上上回っている。 ○4問中4問とも県や国の平均を上回っていて、図形の性質や角の大きさについてよく理解できていることが伺える。 ●五角形を二つの図形に分割し、式や言葉を使って求め方を書く問題は、県や国の平均を15ポイント以上上回っているが、正答率が55.8%で低かった。無回答率も高く、式や言葉を使って説明することに課題があることが分かった。</p>	<p>・今後も、様々な図形の性質について整理したり、作図したりする活動を丁寧に行い、理解を深めていく。 ・図形について習得した知識を活用して説明する力を身に付けられるよう、面積や体積の求め方など、式や言葉を使って説明する活動を意図的に設定していく。また、友達と交流したり話し合ったりする時間を設定し、求め方の共通点、相違点に気付かせたり、説明の仕方のよさに気付かせたりできるよう、指導を工夫する。</p>
C 測定	<p>平均正答率は、県や国の平均を10ポイント以上上回っているが、全ての領域の中で最も低い正答率だった。 ○2問中2問とも県や国の平均を上回っている。 ●はかりの目盛りを読む問題の正答率が64.2%でやや低かった。目盛りが表す数値の読み方について理解が不十分であることが分かった。</p>	<p>・長さや重さの学習では、実際にものさしやはかりを使って測る活動をしっかり行う。</p>
C 変化と関係	<p>平均正答率は、県や国の平均を10ポイント以上上回っている。 ○伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができるかみる問題の正答率は90.5%で、県や国の平均を上回っている。全問題の中で最も高い正答率だった。</p>	<p>・長さや重さの学習では、実際にものさしやはかりを使って測る活動をしっかり行う。</p>
D データの活用	<p>平均正答率は、県や国の平均を10ポイント以上上回っている。 ○グラフや表から関係を読み取ったり、条件に合った項目を選んだりする問題の正答率は80%を超えている。また、二つの数量関係に着目し、数値を見いだす問題の正答率は90%を超えており、とても高い正答率だった。 ●適切なグラフを選択した理由や知りたい数量の求め方を数や式、言葉を用いて説明する問題の正答率は、他の問題に比べて正答率が低い。</p>	<p>・日常生活や身の回りの事象について、興味・関心や問題意識をもって実際にデータを集めたり、集めたデータに対し、目的やデータの種類に応じて表やグラフにまとめたりするような場を設定していきたい。 ・分類整理した表やグラフから、特徴や傾向を把握し分析するなど、問題に対する結論について、自ら根拠をもって説明することができるように指導していく。</p>

宇都宮市立今泉小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	54.2	48.6	46.7
	「粒子」を柱とする領域	63.2	52.8	51.4
	「生命」を柱とする領域	65.3	55.5	52.0
	「地球」を柱とする領域	81.6	67.9	66.7
観点	知識・技能	67.5	57.5	55.3
	思考・判断・表現	70.5	60.4	58.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は、県や全国の平均を7.5ポイント上回っている。</p> <p>○電流がつくる電磁石について、電磁石の強さはコイルの巻き数によって変わることを問う設問では、全国や県の平均を4ポイント上回っている。</p> <p>●アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質について当てはまるものを選ぶ設問については、全国や県を上回っているものの、正答率は20%で低かった。</p>	<p>・金属に関連した学習のときに、身の回りの金属について電気を通すもの、磁石に引き付けられるものがあることを再度確認し、知識が定着するようにする。</p> <p>・電気の学習では、3年生から6年生までの系統性を意識し、児童と振り返りながら学習を進めていく。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は、県や全国の平均を11ポイント上回っている。</p> <p>○海面水位の上昇について、水の温度による体積変化を根拠に予想する設問では、県や全国の平均を約20ポイント上回っている。</p> <p>●水の温まり方について、問題に対するまとめを導き出すための実験方法を書く設問では、県や全国の平均とほぼ同じであるが、無回答の児童が2.1%いた。</p>	<p>・観察や実験の際に、学習内容を身の回りの事象と結び付けながら仮説を立て、仮説を確かめられる実験方法を考える。仮説から考察までの一連の流れを丁寧にすることで、目的意識をもって実験に取り組むことができるようにする。</p> <p>・実験や観察の方法を考えたり結果から考察を考える場面で、児童同士の意見を交流する活動を意図的に取り入れ、思考を整理して表現できるよう支援する。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は県や全国の平均を10ポイント以上上回っている。</p> <p>○ヘチマの花のおしべ、めしべ、受粉について問う設問では、正答率が94.7%で、知識が定着している。</p> <p>●顕微鏡の操作に関する設問や、発芽の条件を調べる実験方法を考える設問では、正答率は県や全国を上回っているが、顕微鏡の方は54.7%発芽の実験の方は37.9%と低い。さらに無回答率が5.3%で、他の設問と比べて高かった。</p>	<p>・条件を制御して実験する活動では、調べたいことは条件をそろえることを確認し、条件を変えることを児童にしっかり考えさせた上で実験の計画を立てるような授業展開を心掛ける。</p> <p>・顕微鏡の操作方法について、使用する度に丁寧に確認し、理解の定着を図る。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率は県や全国平均を10ポイント上回っている。また、正答率は80%を超えていて、他領域よりも正答率が高かった。</p> <p>○ほとんどの設問において県や全国の平均正答率を上回っており、学習内容の定着が見られる。</p> <p>●「赤土の粒の大きさによる水のしみこみ方の違いのわけをまとめる」設問では、正答率は75.8%で県や全国の平均を上回っているが、無回答率が4.2%で他の設問と比べて高かった。</p> <p>●温度による水の状態変化と水の循環に関する設問の正答率が80%を下回っており、他の設問と比べて低かった。</p>	<p>・実験や観察の結果を基に結論を導いた理由を言葉や文章で表現することに慣れるために、考察のキーワードを提示しその言葉を使って表現する機会を多く設け、自信をもって発言や記述することができるようにしていく。</p> <p>・温度によって水の状態が変化することと水が身の回りの環境の中で循環していることには関係性があることを、さまざまな学習において関連付けて確認し、概念的に理解を深められる学習活動の工夫を図っていく。</p>

宇都宮市立今泉小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学校に行くのは楽しいと思いますか」の質問では、肯定的回答が93.7%で、県や全国の平均を5ポイント以上上回った。また、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の質問に対する肯定的回答は83.2%で、全国の平均を12.6ポイント上回った。Q-Uや友だちアンケートを活用した教育相談をはじめ、いじめや不登校を生まなため日々の学級経営の積み重ねによって、児童が安心して楽しく学校生活を送れていると考えられる。今後も、教職員一丸となって、安心して過ごせる学級や居場所づくりに努めていきたい。

○「読書は好きですか」の質問では、肯定的回答が88.4%で、県や全国の平均を17ポイント以上上回った。本校では、さわやかタイムの読書時間の確保や学級文庫の充実、秋の読書週間など、児童が学校生活の中で本に親しめるような体制が整えられている。また、読み聞かせボランティアや縦割り班読書集会等により、様々なジャンルの読み物に触れられることも読書活動の充実につながっていると考えられる。今後も図書館司書と連携しながら、児童がたくさんの図書に触れ、読書生活を豊かにしていけるような環境づくりに努めたい。

●「理科の勉強は得意ですか」の質問では、肯定的回答が71.5%で、全国の平均を6.9ポイント下回った。また、「理科の勉強は好きですか」の質問に対する肯定的回答は62.1%で、全国の平均を18ポイント下回った。この結果から、まずは自然や科学といった身の回りの事象に対する児童の興味関心を引き出し、学習意欲を高めることが大切だと考えられる。その上で実験や観察、学習方法を工夫したり、学習内容を生活の中で役立つ場面に結び付けて説明したりすることで、楽しく学習できるような授業展開を考えていきたい。

宇都宮市立今泉小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
見通しをもって学習に取り組める授業デザイン「今泉モデル」を活用した授業を展開する。	児童一人一人が興味関心をもつことができる導入を工夫したり目的意識をもって頑張ることができるような目標や学習内容の設定を行い、主体的に学習に向かう姿勢を身に付けさせたりする。また、考える時間を十分に確保することで、考えを深めたり広げたりできるようにする。授業の終末では、自らの学びを振り返る時間を確保できるようにする。	「5年生までに受けた授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」の肯定的回答は、84.2%だった。また、「分からないことやわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。」の肯定的回答は89.5%で、学習に対して主体的に取り組もうとしている児童が多いことが分かる。「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。」の肯定的回答は88.4%で、昨年度より高い数値だった。また、「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができると感じますか。」の肯定的回答は93.7%で高い数値だった。今後も児童が次の学びにつなげられるような振り返りの充実を図っていく。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していますか。」が78.9%でやや低い数値だった。また、「5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行いましたか」の肯定的回答は84.2%でやや低い。	自分の考えを分かりやすく書いたり、伝えたりする力を身に付ける。 算数の学習に主体的に取り組む、学ぶ喜びを味わうことができる指導を工夫する。	各教科において、自分の考えを整理して書く活動を取り入れ、考える力や表現する力を高めていく。また、友達と考えを交流したり、共有したりする時間を確保し、考えを広げたり深めたりすることができるよう指導を工夫する。個人用パソコンを活用し、考えを整理したり伝える順序を組み立てたりしやすくする。完成したものを交流するだけでなく、考えをまとめていく過程でも、ICT機器を活用して協働的に学んでいくことで、分かりやすく書いたり、自信をもって伝えたりすることができる児童の育成に努めていく。 算数の学習では、今泉モデルを活用した授業を意識し、児童一人一人が主体的に取り組むことできるめあての設定や課題の提示の仕方を工夫する。また、できた、分かった実感がもてる授業を工夫したり、習得した知識を活用して取り組むことができる課題を設定したりするように努める。
今年度重点教科として授業改善に取り組んでいる算数において、「算数の学習は好きですか。」の肯定的回答は65.3%と低かった。また、「算数の授業でどのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか。」の肯定的回答は73.6%で低かった。		